

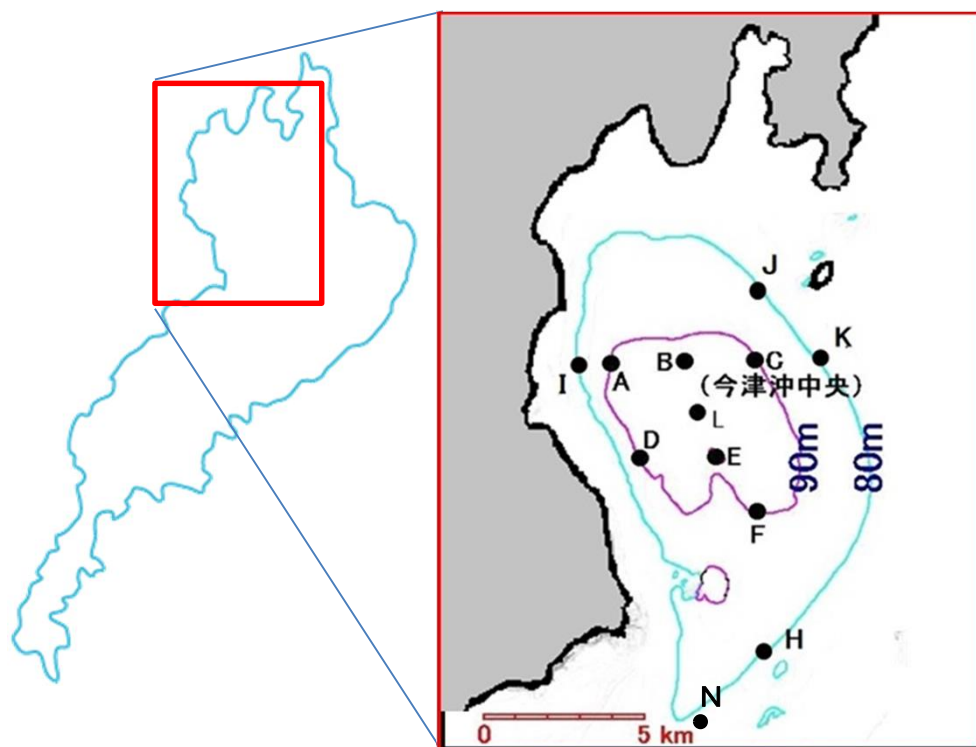
北湖底層DO調査結果（速報）

すいおんやくそう

北湖では、例年春季から初冬にかけて水温躍層が形成され、上層と下層の水の対流がなくなるため、底層の**溶存酸素(DO)**が低下し、晩秋に最も低くなります。その後、冬季に湖水の全層循環が起こり、底層まで酸素が供給されDOが回復します。

滋賀県では、北湖の底層DOの状況を把握するモニタリング調査を実施していることから、その結果をお知らせします。

調査地点



今津沖第一湖盆中央(水深90m)
およびその周囲の調査地点

C、F、L点：定期調査

A、B、C、D、E、F、L：詳細調査

K、H、I、J、N(水深80m)：詳細調査

湖底直上1mを調査

※底層DOの状況に応じて、地点数等を変更することがあります。

令和7年度の北湖底層DO調査結果（速報）

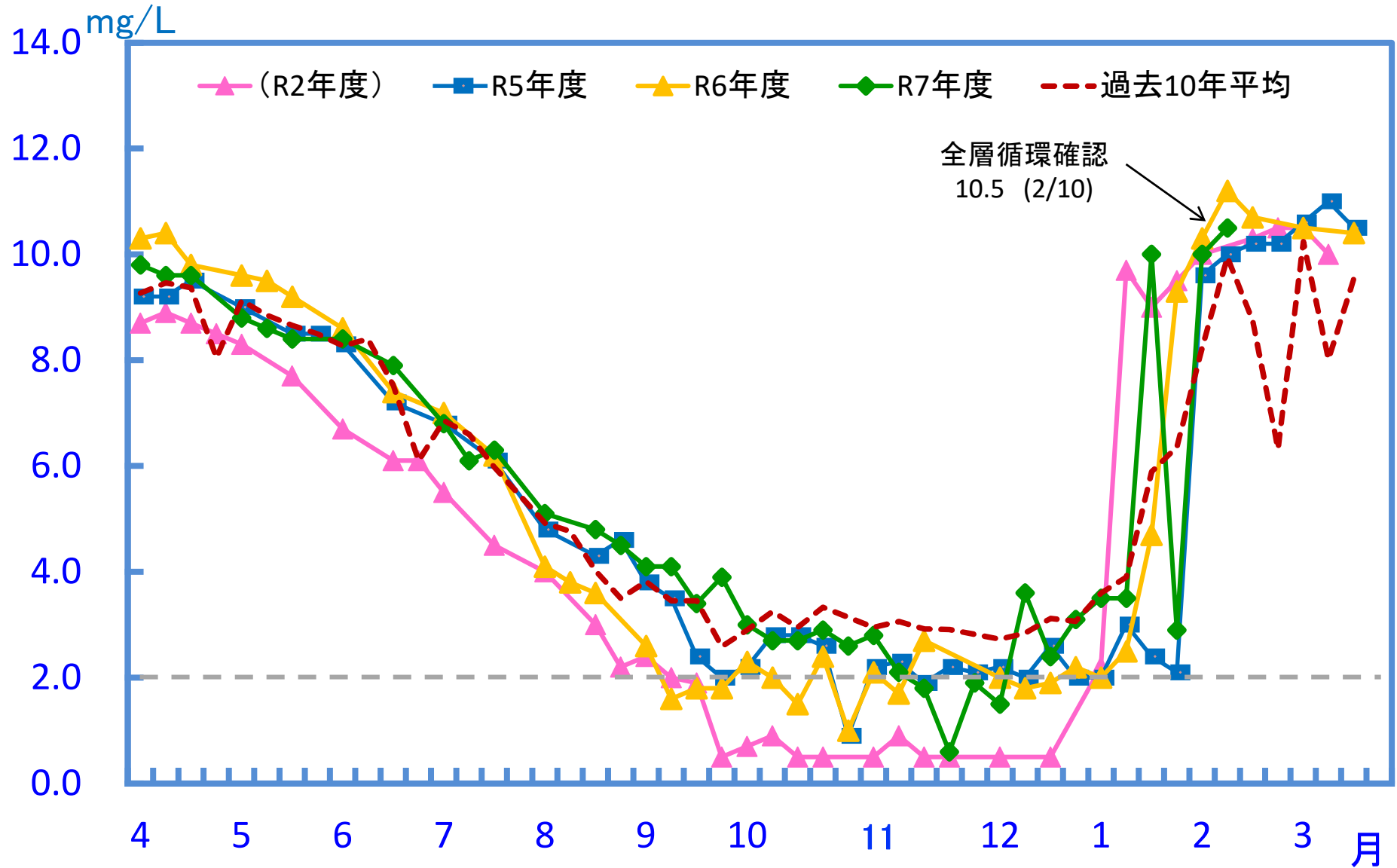
単位：mg/L

調査日 調査地点	12月				1月					2月	
	12/1	12/9	12/16	12/23	1/5	1/14	1/19	1/26	1/27	2/2	2/10
A		1.2		2.6		4.4			3.3		10.0
B		1.7		4.0					3.2		10.1
C(今津沖中央)	1.5	3.6	2.4	3.1	3.5		3.5	10.0	2.9	10.0	10.5
D		1.7		2.3					5.9		10.0
E		2.1		3.3					3.5		10.1
F	1.2	1.9	1.1	3.7	3.1	3.7	3.3		3.6	10.2	9.9
L(第一湖盆中央)	0.9	1.8	2.5	2.3	2.8		3.4		3.4	9.9	9.9

注1：表中の黄色部分は貧酸素状態（2.0mg/L未満）、オレンジ部分は無酸素状態（0.5mg/L未満）の結果を示します。

注2：風などの気象条件や底層DOの状況に応じて、地点数や範囲を変更することがあります。

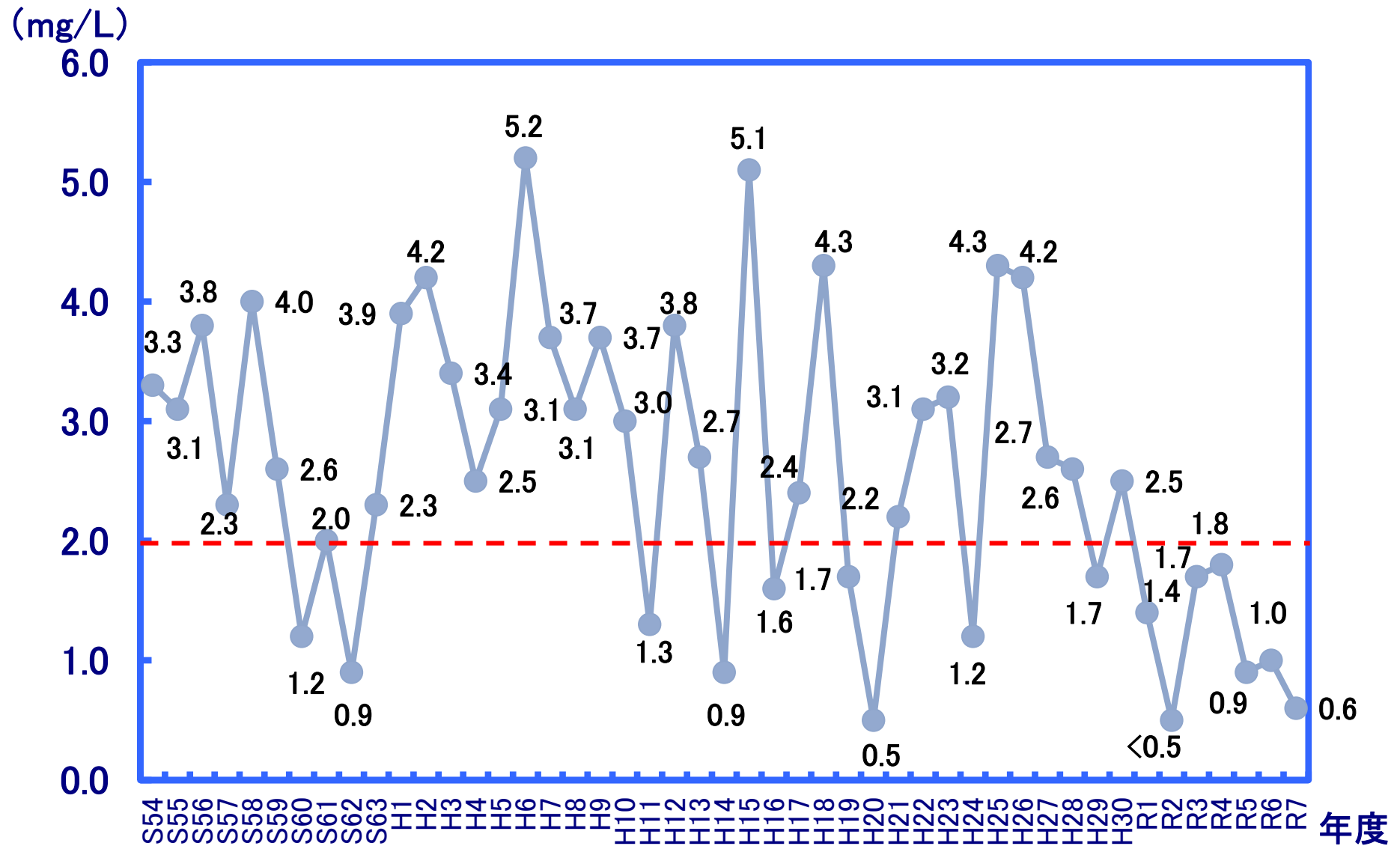
C点における底層DOの経月変動



注：令和2年度は、前年度の冬に全層循環が未完了であった影響により、例年よりも底層DOが低下した特異な年であるため記載しています。

データ：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

C点における底層DOの年度最低値



※H18以前は月2回、H19以降は月3～4回の調査頻度
 データ: 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター